

地歴公民 (日史・世史・地理・政経・倫理) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文】

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

客観式 30 個、記述式 10 個、論述式 12 題 (1 行×1、2 行×7、3 行×4 計 27 行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

昨年度に比べ、論述式が 1 題増加したものの総行数で 1 行減少し、客観式が 8 個、記述式が 2 個減ったため、全体としての分量は昨年よりやや減少した。全体的な難易度もやや易化したため、時間配分に対する受験生の苦労は解消されたと思われる。

出題の特徴や昨年との変更点

地形図に関する問題や統計や地図を用いた出題は例年通りであり、2021 年度の入試改革から登場した「正しい (または適当でない) ものをすべて選べ」という多答の問題が、今年も多く見られた。

その他トピックス

2023 年度北大入試オープンの 4 で、ブラジルを取り上げ「カラジャス鉄山」などを問うた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	客観式 論述式	地図と統計	問 1、問 2、問 3 の客観式問題は全問正解したい。問 6 の客観式問題では、人口の絶対数はわからないことに気づきたい。問 7 の統計情報を地図で表現する利点は、ポイントが絞りにくい。	標準
2	客観式 記述式 論述式	ブラジル	問 2、問 4 の記述式問題と問 3 の客観式問題は、いずれも容易である。また、問 7 で使いにくい指定語句があるものの、全体として問 4～問 7 の論述式問題も書きやすいので高得点を目指したい。	やや易
3	客観式 記述式 論述式	ロシアと周辺国	ロシアは深く学習することがあまりない地域であり、ここがどのくらいできたかで差がついたと思われる。問 7、問 8 の客観式問題の判定は難しい。	標準
4	客観式 記述式 論述式	北アメリカ	問 1、問 4 の客観式問題と、問 2 の記述式問題は全問正解しよう。問 3 のサラダボウルを説明する問題は、どこまで記述するかで悩む。問 6 は、近年のエネルギー事情に注意しておかないと難しい。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 客観式や記述式がどれだけできるかが得点差のカギになると思われるので、教科書や共通テスト(センター試験)の過去問などで基本的知識を確実に習得しておくこと。
- 50~100 字程度の論述が多く出題されるので、過去問などを利用して各テーマをコンパクトにまとめられる論述力を身につけておこう。
- 統計や地名に関する問題が頻出しており、細かな統計や地名を押さえるとともに、統計の持つ意味を理解する学習が求められる。
- 地図を利用した問題が多いので、白地図を使った学習を行うとよい。また、地形図や地図に関する出題も多いので、実際に地形図や地図を利用して慣れるようにしよう。